

供給側の視点からの検討（卸売業、小売業）

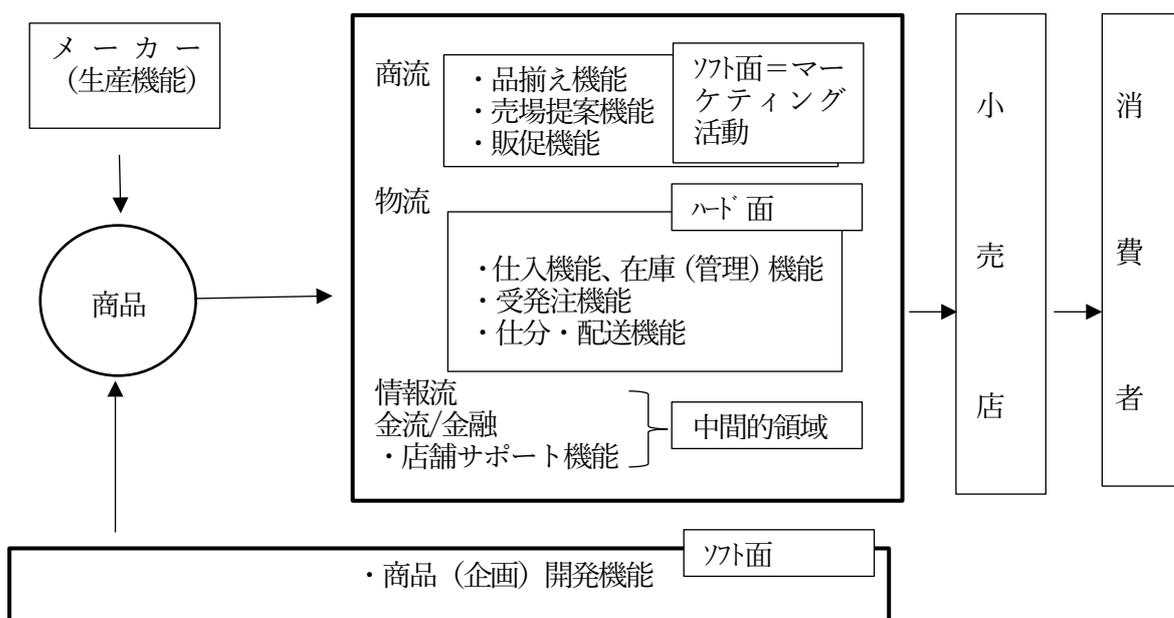
1. 卸売業と小売業の検討に際して

前回、製造業を対象にして供給側の視点からの試行等を行った。製造業においては原材料、工程、生産技術の差異を考慮した分類が比較的容易であると考えられるが、商業（卸売業、小売業）やサービス業では製造工程を直接持たないことがほとんどであるため、製造業と全く同じ視点による検討は困難であるといえる。このため、商業を対象にした場合に供給側の視点からどのように検討すべきかを考察する必要がある。

商業は、生産者と消費者との間で、主として消費者や市場のニーズを踏まえて仕入と販売を行う業種であり、関係者へのサポートも行いつつ、必要な品質や数量等を確保するほか、適切な販売時期を見据えた在庫調整も行い、場合によっては販売促進に有用となる小売業への支援のほか、必要な物流体制も備えることがであるとされる。今回の検討では、特に卸売業を対象にして定性的な整理を行ったが、小売業も同様の傾向があると推察される。

卸売業の機能としては、商流、物流、情報流、金流の4大機能があるとされる（以下の図表を参考）。また、卸売業の具体的な業務は、日常的な商談、品揃えの提案、売場（陳列のあり方）の提案、情報提供、オペレーション（欠品、受注・納品の管理）とされる。これらをソフト面とハード面に2分すると、ブランド戦略に基づいたマーケティング活動や商品の企画開発機能がソフト面に相当し、また、効率的な受発注機能等を有したシステムによる物流機能等がハード面に相当すると考えられる。

[卸売業の機能と生産技術ハード面・ソフト面]



(出典)「卸売業の経営戦略展開(尾田寛仁、2018)」の64頁、185頁を基に事務局が作成。

今回の整理に当たっては、上述の視点を参考にして商業を、①ハード面、②ソフト面、③中間的な領域の3つの視点から、現時点で把握できる情報を基にして試行的に整理し、課題をまとめることにした。

具体的には以下が3つの視点の主な項目である。

- ① ハード面（仕入、在庫管理、受発注管理、仕分や配送を支える流通施設や管理設備等）
 - ・ 物流システム、倉庫、商品特性に応じた運送・管理
 - ・ 特に生鮮食品を扱う場合には温度管理機能を有する冷蔵・冷凍設備
- ② ソフト面（商品の企画・開発、品揃え、売場提案、販促等）
 - ・ 商品企画開発、品揃え、売場提案、販促に関するノウハウ（従業員スキル）
 - ・ 情報提供・金融等の店舗サポート機能
 - ・ 販売後の修理等のサービス
- ③ 中間的領域（品質検査、品質管理、情報流や金流等を提供する支援システム等）
 - ・ 販促を担うWEBシステム、POSシステム、レジ管理システム等
 - ・ 商品検査、品質管理に関する仕組みやノウハウ

これらの視点による試行と併せて、産業分類、生産物分類、国際分類との分類項目数等の比較も行い、今後の検討の参考とする。なお、サービス業を対象とする検討は、製造業や商業との相違点をも考慮して行い、次回検討チームに報告予定である。

2. 3つの視点からの整理（卸売業）

これまでの検討チームにおいて、細分類の「統合」が議論されたことのある2つ（下記(1)(2)）の細分類とともに、細分類の対象が広いために分割も想定される1つ（下記(3)）の細分類を対象として、試行的に整理した。

(1) 男子服と婦人・子供服

	ハード		中間的領域	ソフト（人的スキル）	
	物流設備	商品特性に応じた設備		従業者スキル	関係者へのサポート
5121 男子服	倉庫・物流設備（主要道付近の倉庫の活用）、配送トラック	ICタグ等	販促用のWEBシステム、POSデータによる在庫管理システム、商品検査	仕入販売の目利き、商品企画・開発	リテールサービス（数年程度間隔での流行の把握、小売店への助言）
5122 婦人・子供服	倉庫・物流設備（主要道付近の倉庫の活用）、配送トラック	ICタグ等	販促用のWEBシステム、POSデータによる在庫管理システム、商品検査	仕入販売の目利き、商品企画・開発	リテールサービス（半年程度間隔での流行やデザインの把握、小売店への助言）

○ 比較

(ハード、中間的領域)

- ・「男子服卸売業」と「婦人服・子供服卸売業」は、ハード面と中間的領域での類似性が高いと考えられる。

(ソフト)

- ・流行のサイクルが大きく異なる（男子服は数年程度、婦人・子供服は半年程度）ため、生地、型紙、デザイン等の工程に要する期間が両者でかなり異なる。
- ・特に婦人服では、デザイン等のニーズを踏まえた独特の流通ノウハウがある。

○ まとめ

おおむね以下の表のように整理できる。大きく異なるのは、女性・子供服では流行サイクルを踏まえたデザイン等に要する工程の差が大きいと考えられる。このため、仮に統合を検討しようとする場合には、実態を十分に把握した上で、デザイン等の工程差によるソフト面の差異を整理することが必要である。

ハード	中間的領域	ソフト	生産物分類の位置付け	国際分類等との比較
類似性が高い。	類似性が高い。	相違している（流行周期等の差が大きい）。	分類項目がある。	以下の例では1つの細分類である。 ISIC：「4641 織物、衣料及び履物卸売業」 NAICS：「4243 衣料・反物・小間物類卸売業」 NACE：「46. 42 衣料品及び履物」

次に、(1)と同様、(2)の野菜と果実についても試行的に整理する。

(2) 野菜と果実

	ハード		中間的領域	ソフト（人的スキル）	
	物流設備	管理設備		従業者スキル	関係者へのサポート
5213 野菜	卸売市場での冷蔵庫・事業所、トラック・ピル、低温荷捌き施設、倉庫、配送トラック	常温・チルド・冷凍・定温管理のコールドチェーンシステム等	商品検査、生産者のトレーサビリティサービス、販促用のWEBシステム、POSデータによる在庫管理システム	個別野菜の選別、仕入販売の目利き	リテール・サービス（季節の商品流行の把握、小売業への助言）
5214 果実	卸売市場での冷蔵庫・事業所、トラック・ピル、低温荷捌き施設、倉庫、配送トラック	常温・チルド・冷凍・定温管理のコールドチェーンシステム等	商品検査、生産者のトレーサビリティサービス、販促用のWEBシステム、POSデータによる在庫管理システム	個別果物の選別、仕入販売の目利き（一部に高級品市場がある。）	リテール・サービス（季節の商品流行の把握、小売業への助言）

○ 比較

(ハード、中間的領域)

- ・「野菜卸売業」と「果物卸売業」は、ハード面と中間的領域での類似性が高いと考えられる。

(ソフト)

- ・個々の商品の旬の時期に応じて取り扱い時期は変わるが、青果卸売市場が両者を取り扱っていると推察されるように、両者に大きな違いはないと考えられる。
- ・一部の果実（メロン、マンゴー、ライチ等）には、高級贈答品や季節の目玉商品として扱われるなど、高級価格帯のものがある。

○ まとめ

おおむね以下の表のように整理できる。現時点で大きく異なる点は見当たらず、仮に統合を検討しようとする場合には、他に問題がないかの確認が必要となる。

ハード	中間的領域	ソフト	生産物分類の位置付け	国際分類等との比較
類似性が高い。	類似性が高い。	類似性が高いが、違いとしては、果物の一部に高級価格帯のものがある。	分類項目がある。	以下の例では1つの細分類である。 ISIC：「4630 食料品、飲料及びたばこ卸売業」 NAICS：「424480 生鮮果物・野菜卸売業」 NACE：「46.31 果実及び野菜の卸売業」

次に、製造業との関係が深いと考えられる2つの業種を以下のように試行的に整理した。この2つの業種の対象は相当程度大きいと考えられるため、分割できるかを検討する例として提示する。

(3) 自動車（二輪自動車を含む）と電気機械器具

ア【自動車（二輪自動車を含む）】

	主な品目	ハード	中間的領域	ソフト（人的スキル）	
		物流設備		従業員スキル	関係者へのサポート
5421 自動車(二輪自動車を含む)	乗用車、トラック、トレーラー、二輪自動車	工場や港湾などから製品を受け入れる広大な駐車場	車体検査	国内外のニーズの把握、整備技術	リテール・サービス(流行商品の把握、小売業への助言)、大企業・中堅企業向けのサポート

○ 検討の視点からの整理

(ハード)

- ・特に自動車の場合には、工場や港湾付近に広大な駐車場が必要となる。

(ソフト、中間的領域)

- ・車体検査や整備技術は、製品別のノウハウがそれぞれにあると考えられる。

○ まとめ

おおむね以下の表のように整理できると考えられる。検討の視点のうち、ソフト面でのウェイトが大きいと想像される。他方、今回の試行的な整理では、分類の統合や分割の検討に必要な情報がかなり不足していると思われるため、実態を十分に把握する必要があり、その上で仮に統合を検討しようとする場合には、他に問題がないかの十分な確認も必要となる。

ハード	品質管理	ソフト	生産物分類の位置付け
商品毎の大きな違いはないと考えられる。	商品毎の大きな違いはないと考えられる。	製品別のノウハウがそれぞれにあると考えられる。	分類項目がある。
国際分類等との比較			
以下の例では1つの細分類である。			
ISIC：「45自動車とオートバイの卸売・小売・修理業」			
NAICS：「423110自動車その他の車両卸売業」			
NACE：「45自動車とオートバイの卸売・小売・修理業」			

イ【電気機械器具】

	主な品目	ハード	中間的領域	ソフト（人的スキル）	
		物流設備		従業員スキル	関係者へのサポート
5432 電気機械器具 (家庭用除く)	テレビ発信器、PC、業務用洗濯機、携帯電話、バッテリー、PC卸売業	物流設備（主要道付近の倉庫の活用）、配送トラック、POSデータによる在庫管理システム	商品検査	製品毎の修理・整備技術	リテール・サービス(流行商品の把握、小売業への助言)

○ 検討の視点からの整理

(ハード)

- ・大手の電機機械器具の場合には、道路へのアクセス条件が良い場所への倉庫等の立地が想定される。

(ソフト、中間的領域)

- ・車体検査や整備技術は、製品別のノウハウがそれぞれにあると考えられる。
- ・海外への卸売りを含めると、必要なノウハウは製品別または事業所によってかなり異なっていると考えられる。

○ まとめ

おおむね次頁の表のように整理できると考えられる。分類項目の対象となる製品の種類がかなり多いと考えられるため、検討の視点のうちソフト面でのウェイトも大きいと想像される。他方、今回の試行的な整理では、分類の統合や分割の検討に必要な情報がかなり不足していると思われるため、実態を十分に把握する必要があり、その上で仮に統合を検討しようとする場合には、他に問題がないかの十分な確認も必要となる。

ハード	品質管理	ソフト	生産物分類の位置付け
製品毎の違いが大きいと考えられる。	製品毎の違いが大きいと考えられる。	製品別のノウハウがそれぞれにあり、しかもその違いが大きいと考えられる。	分類項目がある。
国際分類等との比較			
以下の例では3つずつの細分類が該当すると思われ、コンピュータ関係の扱いがJSICとは異なる。			
○ISIC			
「4651 コンピュータ、コンピュータ周辺装置及びソフトウェア卸売業」			
「4652 電気・電気通信機器及び部品卸売業」			
「4659 その他機械器具卸売業」			
○NAICS			
「423430 コンピュータ、コンピュータ周辺機器及びソフトウェア卸売業」			
「423610 電気器具・電気設備・配線用品・関連機器卸売業」			
「423690 その他の電子部品・機器卸売業」			
○NACE			
「46. 51 コンピュータ、コンピュータ周辺機器及びソフトウェア卸売業」			
「46. 52 電子通信機器及び部品の卸売業」			
「46. 69 その他機械及び機器の卸売業」			

3. 国際分類との比較（総数の比較）

商業（卸売業と小売業の合計）を対象にして、国際分類等との分類項目数を比較したのが以下の表である。

	産業分類 (細分類)	生産物 (詳細分類)	センサスにおける 産業区分
日本 (JSIC)	202	1312	166
国連 (ISIC)	43	389	—
EU (NACE)	90	236	—
EU (ドイツ)	160	—	—
米国 (NAICS)	137	329	900 前後

(注) 産業分類や生産物分類等においては、各分類項目の対象が異なっている場合があると考えられるため、上表の数字のみをもって分類項目数の多寡を特定することは必ずしも有用ではない。このため、引き続き、分類項目の対象等の整理を継続することが必要である。

- JSICの細分類の項目数は202であり、ISICの43と比べると多くなっている。ただし、上述の(注)に記載してあるように、各国の歴史的経緯を背景に、分類項目の粒度等が異なっている可能性があるため、引き続き精査が必要である。
- 米国 (NAICS) の産業分類数は137だが、センサスにおいて非常に多くの細分化された産業分類の選択肢を用意しており、実態的にはかなり多くの産業分類の区分を有していると考えられる。

4. 検討に際しての課題

○ 実態把握の必要性

商業（卸売業、小売業）の分類の検討に当たっては、ハード、ソフト、中間的領域の実態を十分に把握した上で行うことが望ましいが、各業種における実態を網羅的に把握することは時間的に困難な側面があるため、効率的な方法を検討する必要がある。

○ 分類項目の粒度（対象範囲）の考慮

現行の分類項目を対象に、一定の検討の視点から統合または分割を検討しようとする際には、現行の分類項目の粒度（対象範囲）等の差異を十分に考慮する必要があると考えられる。

その際、仮に統合する方向になった場合には、当該分類項目の継続性の観点から中長期的な変化を把握できなくなる可能性を十分に考慮する必要があると考えられる。これに関連して、例えば、細分類を包含する小分類がある場合には、当該細分類の統合が本当に必要であるかも検討する必要がある。

○ 重点的な業種の特定と整理

今回は卸売業を対象にして定性的な整理を行ったが、今後、経済センサスデータ等を用いた産業分類間の移動を把握すること等により、重点的な業種の特定と整理を行うことが重要である。

○ 継続的な検討

商業において供給側の視点で分類構成等を検討する際には、今回のような端緒に着いた段階の試行的な整理だけでは不十分であり、どのような場合に統合や分割が必要となるのかの方法論を引き続き検討する必要があると思われる。

【参考文献、ヒアリング先】

- ・ きんざい編『業種別審査事典』2020年版
- ・ 尾田寛仁『卸売業の経営戦略展開』三恵社 2018年
- ・ 満園勇『日本流通史』有斐閣 2021年
- ・ 国内衣料卸売業社へのヒアリング（2022年11月16日に実施）
（出席者：事業部の執行役員2名（ニット部門担当、カットソー部門担当）、経営企画部課長）

第11回検討チーム(令和4年9月21日)「供給側の視点からの検討について」より

今回の改定における課題の一つに供給側の視点からの検討(生産技術の類似性の観点からの見直し)がある。これは統計改革推進会議の報告にも位置付けられたものであり、関係省ともその課題認識を共有しているが、生産技術の類似性を明確に示すデータの入手等に困難な面があり、検討方法の具体化に時間を要しているところである。

このような状況であるが、供給側の視点からの検討に関する今後の方針としては、第10回検討チーム(R4.8.5)において了承されたように、本年度末までに、その視点を適用する際の考え方や試行を行い、可能な範囲での検討を進めることとしている。その主な検討事項は以下のとおりである。

- ① 具体的な適用の考え方の整理(分野別)
製造業とサービス業では、同じ基準で適用できないのではないかと。
- ② 実例、試行例
製造業、商業(卸売・小売)、サービス業における特定の分類での適用を試行し、その場合の課題を整理することなどを考えている。
- ③ 今後に向けた課題の整理
次回以降も検討していくことを見据えて、検討課題を整理し、計画的に検討していく。

第10回検討チーム(令和4年8月5日)「第14回改定に当たっての課題の整理」資料4より

今後の対応事項

1) 生産技術の類似性に関する検討

今次の改定においては、生産技術の類似性の基準を適用する際の考え方や試行を行い、可能な範囲での検討を進めることとしたい。

具体的な検討事項としては、以下のとおり。

- 具体的な適用の考え方の整理(分野別)
- 実例、試行例
- 今後に向けた課題の整理

また、令和5年度に整備される生産物分類の全体版や生産技術の類似性の適用のあり方を含む諸課題を踏まえて、現行JSICの具体的な見直しの方向性等を今次の改定以降も検討していくことは重要と考えており、継続して取り組むこととしたい。